

## 土木偉人映像展「復権する河川の自然主義」

～岡崎文吉と沖野忠雄の論争～

日時：平成 22 年 11 月 20 日（土）13:00～14:30

会場：コンファレンススクエア M+（三菱ビル 10 階） [東京都千代田区丸の内 2-5-2]

明治の大事業、石狩川改修の指揮を執った岡崎文吉は河川の自然の性質を尊重する河川の自然主義を提唱した。その後、石狩川改修はショートカット方式が取られ、彼の考え通りには進まなかった。しかし近年、河川の自然主義に注目が集まり復権しつつある。また、岡崎の考案したコンクリート単床ブロックは海を越え発展し、現在のミシシッピ川改修の基本技術として使われている。

浅田英祺氏制作、北海道開発庁発行の「石狩川治水事業と岡崎文吉」の DVD（一部、岡崎の足跡と業績がまとめられている）を放映する。その後、高橋裕先生、北室かず子さん（ウェッジ選書「川は生きている」に岡崎文吉について執筆）を迎え、河川の自然主義とこれからの河川整備について考えてみたいと思います。主な論点は以下の通りです。

- ・ 明治時代の河川技術者の志と教養はなぜ高かったか？
- ・ 岡崎が提唱した河川の自然主義とは？
- ・ 論争に敗れた後日本の河川技術はどのように展開していくのか？
- ・ 岡崎式ブロックはなぜ世界で通用するのか？
- ・ 岡崎文吉に見る河川の自然主義の現代的意義とは？



岡崎文吉

明治 5（1872）年、岡山に生まれ、15 歳で札幌農学校工学科の第 1 期生として入学、卒業後は 21 歳で助教授に就任し、明治 29（1896）年に、道庁の技師に任ぜられた。岡崎は、明治 37（1904）年の大洪水のデータを収集、解析し、1 年間視察した海外の治水事情も踏まえて、明治 42（1909）年、道庁に、「石狩川治水計画調査報文」を提出した。この中で、岡崎は「自然主義」を唱え、蛇行した川の流れはそのまま残して、決壊しやすい護岸を補強し、放水路（バイパス）で洪水時の増水を流す方法であった。この時に算出した洪水流量、8,350m<sup>3</sup>/s は、その後 70 年間にわたり石狩川治水事業の指標となった。また、岡崎が開発した「コンクリート単床ブロック」は、日本で使われたとともに、

現在のミシシッピ川改修の基本工法となっている。

明治 43（1910）年、石狩川治水事務所長に就任した岡崎は持論の放水路方式で行う予定でした。ところが、大正 6（1917）年、「石狩川治水事業施工報文」において、蛇行部をショートカットする捷水路（しょうすいろ）方式に変更した。この間の詳しい事情は不明であるが、当時主力だった、捷水路派（沖野忠雄）との論争があったとも云われている。

映像：「石狩川治水事業と岡崎文吉」

講演：高橋裕（東京大学・名誉教授）

コメンテーター：北室かず子（フリーライター）

コーディネータ：島谷幸宏（九州大学・教授）